

所属・氏名 湯本小学校 ・ 森 田 圭 子  
ゆもと幼稚園 ・ 佐々木 環 奈

## 1 はじめに

湯本地区は、湯本小学校、ゆもと幼稚園、湯本保育園の1校2園で構成されている。この数年は、湯本小学校への入学児童の約半数が、2園の卒園児である。今年度は、現1年生（28名）の内7名がゆもと幼稚園卒であり、また、ゆもと幼稚園の現5歳児（29名）の内9名が湯本小学校へ入学予定である。

これまで、湯本地区の保幼小連携では、職員による学習・保育参観や子供同士の交流、また、その中で保幼小の職員が子供の育ちを見取り共有することを年間を通じて行ってきた。しかし、昨年度末からの新型コロナウイルス感染症対策のため、今年度の保幼小連携は、先が見えない中でのスタートとなった。

下の表に、昨年度（令和元年度）と今年度（令和2年度）における、湯本地区の保幼小間での連携・交流に関わる取組を記載した。子供同士の交流も職員間の連携・交流も大幅に縮小したが、その時々状況下で可能な取組を実施してきた。本研究での湯本地区の実践として、表中の【事例1】～【事例3】を紹介する。

|      | 令和元年度                                                                                                         | 令和2年度                                                                                                                                                                                      |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 4月   | ◆花巻市保幼小連携研修（ブロック会議）<br>・学習参観①（湯本小学校）<br>◆学習参観に基づいた意見交換①                                                       |                                                                                                                                                                                            |
| 5月   | <b>㊦ 保育参観（ゆもと幼稚園）</b>                                                                                         |                                                                                                                                                                                            |
| 6月   | ◆交流会①打合せ(1)<br>・保幼小交流会<br>・保育参観（湯本保育園 / 1年担任）<br>・学習参観②（湯本小学校）<br>◆学習参観・保育参観に基づいた意見交換②<br>◆交流会①打合せ(2)         | ◆花巻市保幼小連携研修（ブロック会議）<br><br><b>・保育参観（湯本保育園 / 1年担任・校長） 【事例1】</b><br><b>・保育参観（ゆもと幼稚園 / 1年担任・校長）</b><br><b>・学習参観（湯本小学校 / 5歳児担任 他）</b><br><b>◆学習参観・保育参観に基づいた意見交換</b><br>・小学校校舎内見学（園行事、5歳児お楽しみ会） |
| 7月   | ◎交流会①（ペア遊びを中心に）<br>◆交流会①反省<br>◆交流会②打合せ                                                                        |                                                                                                                                                                                            |
| 8月   |                                                                                                               |                                                                                                                                                                                            |
| 9月   | <b>㊦ 授業参観（1年生）・研究会</b><br>◆交流会②③打合せ                                                                           |                                                                                                                                                                                            |
| 10月  | ・学習参観③（湯本小学校公開研究会）<br>◆交流会②打合せ<br>◎交流会②（グループ交流を中心に）<br>◆交流会②反省                                                | ・ゆもと幼稚園講演会講話（校長）                                                                                                                                                                           |
| 11月  | ◎交流会③（学習発表会練習見学）<br>◆年間反省<br>・給食参観（湯本小学校 / 5歳児担任）<br>・ニコニコ先生体験・給食参観<br>（湯本保育園 / 1年担任）<br>・給食参観（ゆもと幼稚園 / 1年担任） | ・小学校マラソン大会応援（ゆもと幼稚園）<br>・保育参観（ゆもと幼稚園・湯本保育園 / 教務）<br><br><b>◎ポスター・VTR等による交流 【事例2】</b>                                                                                                       |
| 12月  |                                                                                                               | <b>㊦ 校内研修会 【事例3】</b>                                                                                                                                                                       |
| 1～3月 | ・新入学児童引継ぎ<br>・経験引き継ぎシート（5歳児担任記入）                                                                              | ・新入学児童引継ぎ<br>・経験引き継ぎシート（5歳児担任記入）<br>◆年間反省（予定）                                                                                                                                              |
| 適宜   | ・小学校の図書室・校庭・プールの利用                                                                                            | ・小学校の校庭の利用<br>・学校（園）通信・学級通信の交換                                                                                                                                                             |

※表中の記号等は、次のことを表す。

◆：1年担任・5歳児担任を中心として3校園の職員が一堂に会し、子供の育ちを共有する機会となる。

◎：1年生児童と5歳児による交流。

㊦：小学校の校内研修会として実施したもの。幼小接続についての理解を深めることを目的としている。

取り消し線：年度途中で計画されたが、感染拡大防止のため中止となったもの。

㊦：本研究内で実践事例として紹介しているもの。

## 2 実践

### 【事例1】学習参観・保育参観に基づいた意見交換（7月下旬）

幼小双方の教職員が1年生と5歳児の育てたい資質・能力を共有すること、また、子供の資質・能力を多面的・多角的に捉え、授業や保幼小交流会の構想に生かすこと等を目的として、保幼小教職員による連絡会の中での共有の場を設けている。

例年は、保幼小交流会の打合せや反省会も共有の場として機能していたが、今年度、現段階では、学習参観・保育参観（6月下旬～7月上旬）に基づいた意見交換のための連絡会のみ実施している。

参観や意見交換の際に教職員同士が子供の資質・能力を捉え共有する視点として、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」を活用しており、その中でも、特に「協同性」と「言葉による伝え合い」の2項目に重点を置いている。本事例の参観後の意見交換では、次のようなことが話題となった。

#### 5歳児の自由遊びや製作活動の様子から

- ・異年齢間の関わりによる刺激もある。別々のことをしていても、皆でやっていくという気持ちを共有させるようにしている。その中で、「見ていいよ」、「こうするとできたよ」等と、自然と言葉で伝え合おうとする場面が生まれていた。
- ・話を聞くということに関しての個人差が大きい実態。皆で対象や活動について思いを共有することで、話題に興味をもって話を聞こうとする気持ちが徐々に持続できるように心掛けている。

#### 1年生の学習の様子・在園時の様子から

- ・大事に育てたアサガオという皆が共感できる話題を取り上げ、教科（生活科・算数科）を越えた内容に広げた。子供たちがもった思いにより、夏休み中や夏休み明けの学習にもつながっていく。
- ・まだ進んで発言できない子供も、思いをもって学習に参加している様子。
- ・伝えたいことがあってもうまく説明できない子供の思いや発言を教師が汲み取って言い直したり、「○○君がこう言っているけれど、どう？」と他の子供に返したりしている。
- ・子供の気付きや考えを引き出し、つないでいる。他の園から入学した子供同士も、同じ目的を共有し、友達の発言を受けて、自分の考えを言葉や操作で表している。
- ・子供の個別・具体的な様子について。在園時と入学後の比較から、資質・能力を発揮・伸長していると思われる様子や、さらに期待される姿について。

### 考察

- ・入学後、新1年生の様子を参観して意見交換を行うことは、**幼児期に身に付けた力を基にして子供が今後の小学校生活においても主体的に自己を発揮しながら学びに向かっていくための支援・指導に役立てることができる。**また、**園での指導の在り方を振り返ることにもつながった。**早い時期（4月）に実施できれば、1年生の指導へのフィードバックがより有効なものになる。
- ・昨年度の参観と意見交換（4月、6月、10月）のように年間を通して共有の機会をもつことは、**子供の発達を見通すことにつながる。**これは、参観と意見交換以外にも、例年実施している子供同士の交流会や、その前後の教職員による打ち合わせ等の中でも行われていた。今年度のように子供同士の対面での交流ができない状況下でも、**年間を通じて教職員同士の共有の場を設定していきたい。**今年度は、今後3学期に連絡会を設け、子供たちの1年間の学びや育ちの様子について振り返り共有したい。
- ・本事例を含む湯本地区の保幼小連絡会は、1年生担任と5歳児担任を中心として実施しているが、その他に教務や主任、副園長等も随時参加している。このことにより、幼小接続や保幼小連携に関わる情報が**校内・園内でも共有されやすくなった**と考える。

### 【事例2】ポスター・VTR等による交流（11月中旬～12月下旬）

直接対面できなくても、伝えたいことがある。そんな子供たちの思いを膨らませ、ポスターやVTRによりメッセージを届けることで、1年生と5歳児との交流を図った。子供たちの反応から交流は双方向のものへとつながっていった。

## 1年生：年長さんに伝えよう（メッセージポスター・メッセージVTR・発表会VTR）

状況が多少落ち着いた2学期にも、感染予防の観点から保幼小交流会を計画しなかった。しかし、何らかの形で1年生と5歳児の交流をもちたいと考え、担任はそのきっかけを探していた。校内では、延期した運動会を実施し、その後も学習発表会や遠足、マラソン大会と行事が目白押しで、1年生は新しい経験に精一杯の日々。そんな中でも、1年生の園児に対する関心が垣間見える場面があり、その都度取り上げて1年生全体で共有するようにした。

### 大事に育てたアサガオの種についての話し合い

「僕たち、2年生が去年育てたのをもらったね。」  
「この種を幼稚園の人に分けてあげて、来年また、またきれいな花が沢山咲く。」  
「風船に付けて、保育園・幼稚園に届けーって、飛ばしたら？」  
「来年、小学校に入ってくるから、そのときに渡したらいいんじゃない？」

### 学習発表会前後

「去年（5歳児のとき）、1年生の劇を見に来たよ。」  
「（今年はできないから）残念。見せてあげたい。」

### マラソン大会の応援に園児が来ていたと知って

「来てくれてたね！」  
「嬉しい！」  
「いたよ。僕、頑張ったよ！」

1年生が5歳児とのつながりに嬉しさを感じ関わりたいという思いをもっていることを踏まえて、11月中旬、担任が「園でも発表会（遊戯会）があるんだってね。」と声をかけると、子供たちは自身が在園時の発表会の思い出を語り合った後、次のような話し合いが展開した。

きっと、今頃、すごくドキドキしてるんじゃない。  
うまくいかなあって、頑張っていると思う。

応援の手紙を書こう。でも、僕のことを知っている人、いないよ。

1年生の劇を見せたかったね。  
ビデオで見せてあげられないかな。

私たちの顔の写真も付けよう。知らない人でも、この人が「頑張れ」って言ってる、この人がアドバイスくれたよって、分かるように。

自分たちの頑張った劇を見てもらいたいことや発表についてのアドバイス、遊戯会を応援する気持ちを簡単な手紙に書いてポスターを作り、学習発表会のVTRと共に園に送ることになった。手紙に書きたい内容を話し合う中で、発表会以外の小学校生活に関して教えたこと、伝えたいことも多く出てきた。そこで、それらを含んだ内容のメッセージVTRを撮影して伝えることにした。

1年生は、目的をもって伝える内容や言葉を選び、相手の気持ちを思い浮かべて主体的に活動に取り組んだ。こうしてできたポスターとVTRを、11月下旬に幼稚園へ届けた。

### ▼メッセージポスター 〈お遊戯会、応援しているよ！〉



### ▼メッセージVTRより〈小学校のこと、教えてあげる！〉



### ▼発表会VTRより 〈僕たちの頑張りを見てほしい〉



発表は、ドキドキするけど大丈夫。  
大きな声とにこにこ笑顔で頑張って！

小学校は楽しいよ。  
友達がいっぱいできるよ。

仲よしになろうね。  
一緒にたくさん遊ぼうね。

図書室には本がたくさんあるよ。  
夏には大きなプールであそぶよ。

ひらがなや漢字を上手に書けるようになるよ。  
たし算やひき算もできるようになるよ。

運動会や遠足もあるよ。  
給食はおいしいよ。

困ったことがあったら、僕たちが助けるよ。  
なんでも、すぐに聞いてね。

みなさんが、入学するのを  
待ってるよ～！



**5歳児：うれしかったよ、メッセージ。 私たちも1年生さんに見せたいな**  
(メッセージポスター・遊戯会VTR・メダルのプレゼント)

11月の就学時検診を終え、これまでは小学校への関心が薄かった子供も、入学へ意識が向いた時期である。しかし、多くの子供にとって小学校のイメージは漠然としたもので、そこには期待と共に不安もある。例年のように1年生との交流会が実施できれば、学校施設の様子を知ることや、楽しい時間を共有した1年生への親しみが、入学へ向けての大きな安心感となっていただろう。

1年生からメッセージが届いたことを担任が伝えると、子供たちに驚きと期待が広がった。

メッセージポスターを見ると、本園の卒園生を見つけては喜び、口々に名前を挙げて盛り上がった。担任が手紙に書かれたメッセージを読み上げ説明をするまでは、当然ではあるが、メッセージの内容よりも顔写真へ関心が集中した。

メッセージVTRが始まると、今度は言葉少なに、皆、食い入るように見ていた。知っている卒園生であるかどうかということを超え、それぞれが、自分に語りかけられているように感じられたのかも知れない。1年生が話していることを聞き取ろうと集中し、思わず声を漏らした友達に注意する子供もいた。

続いて、1年生による劇のVTRを鑑賞した。この頃、県内の新型コロナウイルス感染状況により、本園の遊戯会を無観客での実施とすることを決定したばかりであり、保護者の前で演技するつもりで練習してきた子供たちは気落ちしていた。しかし、「1年生に劇を見せてもらったから今度は自分たちの劇もVTRで1年生に見てもらおう」となったとき、子供たちは俄然やる気を見せ、それまでの練習には見られなかった大きな声や動作で演技をするようになった。子供たちは、1年生を「伝えたい相手」として捉え、それが演じることの大きな原動力となった。また、1年生の劇を手本とし、その台詞の話し方や動作の良さに気付いたことも、発表に対する意識を変えることにつながった。

遊戯会終了後、1年生へお礼の気持ちを伝えるために、遊戯会のVTRとポスターのほかに、子供たち一人一人がメダルを作り1年生へ贈ることにした。製作活動が得意でない子供も折り紙を丁寧に折ろうとしており、1年生へ気持ちを寄せていることが見て取れた。これらのものを、12月中旬に小学校へ届けた。

▼知っている1年生さんがいた！



全員だ！

〇〇君だ！  
一緒にご飯食べた  
ことある。

〇〇ちゃんは、  
どこだ？

▼メッセージVTRに釘付け。どんどん前へ



▼遊戯会VTRより 〈1年生に見せたいな〉



▼丁寧に作ったメダル  
〈1年生さん、ありがとう〉



▼メッセージポスター  
〈応援ありがとう！がんばったよ〉



## 1年生：気持ちが伝わったらこんなに嬉しい

幼稚園から届いたポスターを掲示すると、見に来た1年生からは、『『ブレーメンの音楽隊』をやったんだね』といった声のほか、「この年長さんが小学校に来るんだね」等、来年度の出会いを楽しみにする声も上がった。

遊戯会のVTR鑑賞では、発表に引き込まれ黙っている子や、劇中の音楽や動きに合わせて体を動かす子、皆それぞれ集中していた。最後に自然と湧き起こった大きな拍手は、目の前にはいなくとも5歳児へ向けられた1年生の気持ちの表れと思われた。

鑑賞後の振り返りでは、演技を単に楽しただけではなく5歳児の気持ちに寄り添って頑張りを認めたり、5歳児からの反応（VTRやポスター）が返ってきたことで自分の気持ちが伝わったことを実感し喜びを感じたりしていることが窺える次のような発言があった。

### 5歳児の気持ちに寄り添って頑張りを認めている発言

「(年長さんの) お母さん達は劇を見れなかったけど、ちゃんと大きな声でやっていた。」  
「緊張していたけれど、みんな大きな声で言っていて良かった。」  
「はっきり、しっかり、大きな声で言えたから、(年長さんの) お母さん達にも見せてあげたいと思った。」  
「お母さんたちに見せてあげられなくて悲しかったと思うけど、今度(1年生に) ビデオで見せれたから良かった。お母さん達も(ビデオを見たら、そのように) 思うと思う。」

### 自分の気持ちが伝わったことに喜びを感じている発言

「お母さんたちや先生たちだけでなく、1年生のためにもやってくれたから嬉しかった。」  
「私たちが学習発表会のメッセージを送ったから、年長さんが、これを1年生が書いてくれたから元気が出て大きな声でできたと思う。」  
「1年生全員がお手紙を書いたから、年長さんもそれを聞いて頑張るっていう気持ちでやれたから(嬉しい)。」  
「みんなで頑張って丁寧な字でメッセージを送って(手紙を)書いて、年長さんも喜んで『頑張るぞ』と思ってビデオを送ってくれたことが、嬉しかった。」

この話し合いの中で、1年生は、自分の気持ちが伝わると嬉しい、また、相手が嬉しい気持ちになってくれたら自分も嬉しいと、改めて自覚したようであった。

また、顔見知りでない他園卒の1年生からのメッセージについても、5歳児はきっと「嬉しい」、「ありがとう」、「これから友達になる」と感じたに違いないと思いを巡らせた。

さらに、今後も5歳児との交流を続けたいという思いが生まれ、「年長さんに折り紙で何か作ろう」等の意見が出された。

メダルを受け取りVTR鑑賞を行った学級お楽しみ会(2学期がなばったね会)の終盤、記念写真撮影の掛け声は、誰が言うともなく5歳児に向けて「ありがとう!」の大合唱となった。

◀遊戯会VTRに合わせて踊る1年生  
〈楽しいブレーメン〉



▼遊戯会VTRに湧き起こった拍手  
〈年長さん、頑張ったね〉



▼年長さんからのメダルをつけて  
〈年長さん、ありがとう!〉



## 考察

- ・子供たち同士が直接会うことはできなくても、相手意識をもたせることで、伝えようとする気持ちや相手の立場になって考えようとする気持ち、関わる喜びが生まれた。子供たちの反応を教師がつなぐことで、連続した双方向の交流になった。
- ・ポスターは掲示したものを子供たちがいつでもじっくりと見ることができ、VTRは低年齢の子供たちにも訴える力が大きい。特に、聞き手に話しかけるようなVTRの効果は大きかった。
- ・初めは在園中から知っている友達に関心が集まりやすいが、次第に相手意識をもつ対象が広がった。湯本小学校以外に入学予定の5歳児にとっても、この交流は小学校生活への期待を高めることにつながったと思われる。

### 【事例3】校内研修会の形態や内容の工夫

湯本小学校では、幼児期から児童期の子供の発達や学びの連続性について全教職員が学び、共通の認識をもって1年生に関わることをねらいとして、幼小接続に関する校内研修を平成30年度より毎年実施している。年度ごとの職員構成や学校運営等により、校内研修の形態や内容には様々なバリエーションが考えられる。その一例として、この3年間の校内研修会の内容等を紹介する。

#### 平成 30 年度

※①～③を同日内に実施。夏期休業中に設定し、小学校全教職員と幼保の職員が参加できる時間を確保した。

##### ①講義「幼児期の教育」（講師：岩手県立総合教育センター 主任研修指導主事）

幼児期の教育、幼児期の教育と小学校教育の学びの連続性、「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿（以下、10の姿）」について資料を通して学んだ後、視聴したVTR中の子供の活動に現れている「10の姿」を見取る演習を行った。

##### ②保育参観・演習（小学校全教職員と、ゆもと幼稚園の教職員数名で湯本保育園での保育参観）

自由遊びを参観し、幼児期の教育についての実感を伴った理解を深めた。また、講義での学びを生かして「10の姿」を視点とし子供の資質・能力の発揮を見取る演習を行った。

##### ③演習・協議（保幼小の教職員が参加）

保育園・幼稚園・小学校の教職員混合で編成したグループで演習・協議を行った。保育参観での見取りを基にして、具体的な子供の姿に現れていた「10の姿」や、それが小学校のどのような場面につながっているのか等を話し合った。また、「10の姿」を意識して園で行われている活動や支援、互いの教育について気になっていること等も話題になった。

#### 令和元年度

##### ①保育参観（5月。設定した10日間の内、都合のよい日の業間休み）

全教職員が、ゆもと幼稚園を参観。日常的な職員間の交流も目指し、都合に応じて参観できるように実施期間を数日間設定した。職員の異動が少なかったため、昨年度の研修内容を生かしての参観とした。事前に目を通した幼稚園教育要領解説の「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」を視点として園児の発達や学びを見取った。

##### ②授業参観・研究会（10月）

校内の授業研究会と合わせ、1学年の算数科の授業参観と事後研究会を行った。幼児期の教育で育まれた資質・能力を生かしたスタートカリキュラムの実践を経て、主体的に自己を発揮しながら学びに向かう子供の姿が本時の授業につながっていることを確認した。

#### 令和2年度

※本校新任教職員を中心とした保育参観も計画したが感染防止の観点から中止。

##### ①講義「就学前に身に付けたい力とスタートカリキュラム」（講師：保幼小連携担当教諭）

VTR（NHK Eテレ「すくすく子育て」より抜粋）を視聴し、番組中にVTR出演した幼児に育まれている資質・能力についての講義を聞いたり、園の年間指導計画や月案の中に「10の姿」が位置付けられていることを確かめたりし、「10の姿」への理解を深めた。また、スタートカリキュラムの事例として、同VTRにより横浜市の取組について学んだ。

#### 考察

- ・初年度は、幼児期の教育及び「10の姿」、幼児期から学童期にかけての子供の学びの連続性を職員で共通理解するために、研修時間や内容を手厚く設定した。2年目以降はコンパクト化して実施したことで、持続可能な取組になった。
- ・幼小接続に関する校内研修を実施して3年目となり、本校教職員の理解が深まってきた。今後、異動等により職員が大幅に入れ替わっても職員間の共通理解が失われないように、幼小接続に関する情報や校内体制を引き継いでいくことが必要になる。



### 3 おわりに ～コロナ禍における今年度の幼小接続についての所感～

#### ◆形を変えても続けたい保幼小交流 〈5歳児担任の視点から〉

今年度、1年生のT君と5歳児のK君は、送迎等の都合で園で一緒に時間を過ごすことがあった。在園中は、名前は知っているが一緒に遊ぶことはないという程度の関係だった。その2人が、ほんの数回ではあるが同じ時間を共有する内、一緒に遊んだり掃除をしたり声をかけ合ったりと関わりを深めていた。そして、K君は「学校でどんな勉強をしてきたの？算数はあったの？」と、次第に小学校への関心が高まっていった。また、T君には自分が先輩になるという自覚や年下への思いやりある接し方が表れた。2人の変化を目にして、1年生と5歳児の交流は互いに大きな成長をもたらすと改めて感じた。だからこそ、今年度、保幼小交流会がもてなかったことは残念だ。本実践を生かし、来年度以降も、1年生と5歳児が相手に思いを馳せたり思いを共有したりできるような交流の仕方を工夫していきたい。

#### ◆コロナ禍とスタートカリキュラム 〈1学年担任の視点から〉

健康観察、マスク、手洗い、ソーシャルディスタンス等の衛生指導に始まった今年度。入学当初の時期に、子供たちの自由な活動や授業の中でのペアトーク等、教室内的な交流場面の設定が難しく、1年生同士の関係づくりや自己肯定感の育ち等が心配であった。そんな中での日々の工夫をいくつか挙げる。

手遊びやミニゲーム、友達の名前をリレー形式で呼んでの健康観察等、身体との距離はあっても全員で楽しい気持ちを共有したり新しい友達との関わりを意識したりできるような活動を取り入れた。絵本の読み聞かせは、後から手に取れるように本の紹介はするが、間隔をとった座席の子供たちに対して担任が演じお話を語ることに代えて行った。学級の話し合いには2体のぬいぐるみ人形が登場し、子供たちの分身として1年生に相談したり感謝したりし、子供同士の気持ちを取りもったり友達との関わり方を疑似的に体験させたりすることに役立った。また、再度の休校措置があるかも知れないということから、国語・算数の学習進度を急ぎたいという思いもあったが、1学期は、生活科や図工、体育といった教科にも十分に時間をとった。

##### ▼子どもたちが自己発揮できるように

(左：5月 生活科「せんせいとなかよし」

中・右：6月 図画工作科「ころころぺったん」)



コロナ禍に関わらずできたこともある。入学当初は、小学校も在園時と同じように安心して自己発揮し、自分たちで考え工夫していくことができる場であることを子供たちに伝えていく。そのために、子供たちにとっての新しい場や新しい活動に入るときや、困りごとが生まれたときには、子供たちと相談し話し合うことで子供たちが納得できるように心掛けた。また、その中で、「園ではどうだった？」、「どうしたらいいと思う？」と問いかけ、子供たちに育っている力を引き出すようにしてきた。

このように小さな工夫を行ってはきたが、子供同士の直接の交流の少なさか、顔がマスクで隠れたためか、12園から集まった子供たちが互いの名前と顔を覚えるのに例年よりも時間を要したと感じる。

校内でも「コロナ禍で、今後どのように進めていく方向になりそうなのか県内の動向を知りたい」といった意見があるように、来年度の湯本地区の幼小接続の取組についてはっきりとした見通しは立っていない。ただ、スタートカリキュラムは本来的に状況に合わせてマネジメントしていくものと考え、この特殊に思われる状況下でも、各地域、各学校の状況に合わせた工夫が現場の先生方によって止まらず進められていくに違いない。今年度の経験で得たことをこれまでの湯本地区の実践と併せて校内で共有していきたい。